

1 校種／学年／教科／単元／項目

(1) 校種 小学校 (2) 学年 第6学年 (3) 教科 社会科

2 実践のねらい

社会的な思考、判断、表現力の向上をねらいとし、具体的には「地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現する力」の向上ととらえ、最終的には「社会的事象の意味をより広い視野から考える力」を育てたい。

3 I C T 活用のねらい

(1) フリー協働学習ツールで授業を変える

話し合い活動を活発にさせるために、地図や年表などの資料とリアルタイムに意見を共有することができる協働学習ツール (Kneading Board : 創発的分業支援システム、以後 KB と呼ぶ) を授業で併用する。児童間や児童・教師間での話し合い活動を通して、学習課題を多面的・多角的にとらえて、自分の意見を的確に表現することができる力を育てたい。

(2) デジタル教材、電子黒板で学習内容の定着をはかる

学習内容を具体的に理解させるために、情報量と質に富んだデジタル教材を積極的に活用する。様々な情報を活用して学習課題を解決していく学習を通して、社会的事象を多面的・多角的にとらえる力を育てたい。

4 実践内容

(1) 単元名 明治の新しい世の中

(2) 目標

日本に西洋風の様々な文化が入ってきたことで、人々の生活や社会の様子が急激に変化していくことを調べ、理解することができる。

(3) 準備・資料

錦絵「開花因循興廢鏡」、ソフト (Kneading Board)、コンピュータ、プロジェクタ、電子黒板

(4) 展開

学習活動及び内容	支援 (・) 評価 (○)
1 学習課題をつかむ。 明治になって、どのような変化がくらしの中にあるのでしょうか。	・前時の学習内容をふり返りながら、本時の学習課題につなげる。
2 江戸時代からの文化と導入された欧米の文化を対比する。 資料 錦絵「開花因循興廢鏡」 (予想される反応) ・ざんぎり頭←→ちょんまげ ・かんてら←→ランプ ・かご←→人力車 ・鳥帽子←→ぼうし ・おでん←→牛鍋 ・漢字←→外国語 ・酒←→ビール 	・文明開化による世の中の急激な変化を風刺した錦絵を活用して、江戸時代からの文化と対比しながら、導入された欧米の文化を理解する。 ・二つの文化の関係を表にまとめ、各グループの意見を整理しながら日本人の生活に与えた影響を話し合う。 ⑤ 欧米の文化の導入により人々の生活が大きく変化したことを探る、KBに入力できたか。 A : 欧米とのかかわりを常に意識しながら、我が国の近代化を調べることができる。 B : 資料から我が国の近代化を調べることができます。
4 日本人の生活の洋風化について、クイズに答えながら整理する。 (1)衣類について整理する。 ・洋服 ・学生の服装	・Aに達した児童には、当時の農村と都市が受けた影響の違いにも着目して調べよう助言する。 ・Bに達した児童には、KBを活用し、意見を共有させながら欧米文化が日本の生活にどのような影響を与えたのかを考えよう助言する。 ・Bに達しない児童には、電子情報ボードに提示した他の児童の意見を参考にして江戸時代の文化と欧米文化の対比に着目しながら調べよう援助する。 ・事前に自主学習として調べさせておいたワークシートを活用して、誰もが答えるようにしたい。 ・日本に導入された欧米文化についてクイズ形式にしたものを電子情報ボードで提示し、児童が互いに教え合いながら日本の洋風化について整理できるようにする。

- | | | | | |
|--|-------------------------------|--|---|---|
| (2) 食生活について整理する。
・牛肉 　・パン | (3) 建築物について整理する。
・れんが造りの建物 | (4) その他について整理する。
・太陽暦や定時法などの採用
・ランプやガス灯 　・断髪奨励 | 3 本時の学習課題についてまとめ、発表する。
・ワークシートに各自の考えをまとめ、発表する。
・次時の学習内容を把握する。 | ・ワークシートに学習の流れを整理しながら、自分なりの考え方でまとめることができたか確認する。
・考えがまとまらない児童には、農村と都市が受けた影響の違いに着目してまとめるよう助言する。 |
| (5) 電子黒板の活用で活動時間を確保 | | | | |
| 授業では、様々なデジタル教材を提示するために電子黒板を使用した。ねらいは、指示を徹底することによって児童の活動時間を確保することと、情報の共有により内容理解を深めるためである。 | | | | |
| (6) 協働学習ツールで練り上げ学習 | | | | |
| はじめに、デジタルコンテンツ「開化因循興廢鏡（錦絵）」を提示し、文明開化は日本の生活にどのような影響をあたえたかについて班単位で話し合った。そこでは、話し合い活動を活発にさせるために、フリーの協働学習ツール（Kneading Board：創発的分業支援システム、以後 KB と呼ぶ）を活用した。KB を活用することによって、各班の考えをリアルタイムで確認することができた（図①参照）。そのため、児童は他の班を意識したグループでの話し合いを行うようになった。 | | | | |
| (7) 協働学習ツールで話し合いをコーディネイト | | | | |
| 教師にとってリアルタイムで各班の考 | | | | |

図①：児童が記入したKBシート

教師にとってリアルタイムで各班の考え方を確認することができるので机間指導ではピンポイントでアドバイスや助言をすることができた。さらに、全体での話し合いに向けての構想を組み立てたり、コーディネートのポイントを押さえたりすることができた。また、児童は、協力して KB に入力した考えや意見をもとに、教師から直接励ましの言葉を受けることができるため、全体の話し合いでは自分の考えに自信を持って意欲的に発言していた（図②参照）。

(8) プрезентーションソフトでテンポある学習

授業の終末では「日本人の生活の洋風化」についての内容をクイズに答えながら整理した。明治時代に日本へ導入された欧米文化について、教師がプレゼンテーションソフトで画像を交えながらクイズ形式にまとめたものを電子黒板で提示した。児童は、互いに教え合いながら日本の洋風化について整理、確認していく、既習事項をふり返りながら基本的内容を確実に習得していった。

まとめの学習感想発表では、書画カメラを使って一人一人の感想を投影した（図③参照）。児童は、大きく拡大された自分の感想や文字を照れくさそうに読み上げていた。

5 ICT活用の効果

指示や情報の伝達を明確に行うことによって、活動時間を確保し、基礎的・基本的な学習内容の定着をはかる。

(1) 指示の徹底及び活動時間の確保

電子黒板やプロジェクタなどを活用することによって、指示が短時間で明確に行うことができる。そのため、児童の活動（話し合い活動）時間を充分に確保することができた。

(2) 基礎的・基本的学習内容の定着

デジタル教材を授業の中で積極的に活用することによって、映像や画像から具体的に学習内容を理解し、習得することができた。

(3) 話し合い活動の活性化

KB やデジタル教材、書画カメラを活用することによって、教材や児童の意見、作品を大きく拡大して提示することができる。そのため、児童の学習に対する興味や関心を向上させることはもちろんのこと、互いの考えを共有しながら活動を進め、学習内容を深めることができた。

このように、話し合い活動の場面でICTを活用することによって、児童間や児童・教師間での話し合いを充実させることができる。そして、児童は課題を多面的・多角的にとらえ、最終的には自分の力で課題を解決していく方法や態度を身につけることができた。